

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行  
財団法人第五福竜丸平和協会  
〒136-0081 東京都江東区  
夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494

## 第五福竜丸エンジン、船体と再会へ

田中里子

いよいよ「第五福竜丸エンジン」を東京・夢の島へ都民運動の出番になった。二月二十日和歌山県紀三井寺を出発したエンジンは、堺、奈良、京都、彦根、大垣、岐阜、名古屋で、市民への展示や集会を開きながら東海道を上り、三月一日には母港焼津に到着した。「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉を残して亡くなった第五福竜丸無線長久保山愛吉さんの思いを載せてエンジンは、さらに神奈川県川島の三浦三崎に行く。この地では、第五福竜丸は元三崎のカツオ船で、船主は寺本正市さん。「第七事代丸」がはじめの名称で、その後静岡県の船主に売却されて「第五福竜丸」と改名されたという。だからわが三崎も母港ということ、今年一月二十一日には「第五福竜丸のエンジンを三浦に招く会」を結成した。

この結成集会には、私も都民運動実行委員会のメンバーとして出席した。招く会は、エンジン展示に関わった他の地とはひと味違って、会長は三浦市観光協会会長、顧問には三浦市長、同商工会議所会頭たちが名を連ね、市民団体は幹事役になっている。観光協会は積極的に当日も専務が議長を務めたり、会長自身も終始出席、熱意のほどを示していた。エンジン展示の三月三日には幼稚園児たちにも呼び掛けた。ピキニ水爆実験の恐ろしさを、二一世紀に広く伝える意味から貴重な運動になってほしいと思う。

各地の市民団体の具体的な計画の進行にお尻を叩かれる思いで、私たちの都民運動実行委員会も精力的に東京都と折衝、二月十三日都側は第五福竜丸エンジンを引き取り、今秋には船体とともに夢の島に展示することを決めた。青島都知事は「核兵器の恐ろしさを後世に伝えるシンボルにしたい」と発言した。三月十九日には都庁に到着するエンジンと青島都知事が出迎え贈呈式が行なわれる運びになった。ここにもう一つ紹介したいことがある。

(東京地域婦人団体連盟常任委員)



『第五福竜丸』関係資料展示に見入る新藤兼人監督

「船体がスクリーンにして『第五福竜丸』の上映会」の試みでした。「沈めてよいか第五福竜丸」投書から三十年を記念して『第五福竜丸』(新藤兼人監督・一九五九年)の上映会が、三月七日の夜、展示館で行なわれました。今回の上映会には募集人数の三倍以上の応募があり、十四歳の中学生から八十歳の方まで幅広く、静岡県からも多くありました。場内が暗くなり、暖房の音も消え、軽快な音楽と共に、シネマスコープのスクリーンに大漁旗がはためく。宇野重吉さん扮する久保山愛吉さんの娘さん役として出演された、三人の女性の方も、四十年ぶりに揃って新藤監督と対面し、ほほえましく、華やかな場面もありました。第五福竜丸と共に、映画『第五福竜丸』も事件の生き証人として大切に、これからも多くの人に見てもらいたい、という思いを新藤監督、参加者と共に実感した映画会でした。また、上映会を記念して、関連資料展も開催中。



「3・1ビキニ事件記念集会」

三・一ビキニ事件記念集会  
ひろく  
二月二十八日、協会主催の「三・一ビキニ事件記念集会」が、東京

### 第五福竜丸エンジン贈呈式とお帰りの集い

三月十九日東京入りする第五福竜丸エンジンを迎え、左記のように「第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ都民運動」による、東京都への「第五福竜丸エンジン贈呈式」と「お帰りの集い」が行なわれることになりました。

◇エンジン贈呈式◇  
日時 三月十九日(休)  
午前10時～15時  
会場 東京都庁第一本庁舎二階  
正面玄関前  
贈呈式には青島幸男都知事が招かれて出席する予定です。  
◇お帰りの集い◇  
日時 三月十九日(休)午後三時～  
会場 江東区夢の島公園・都立第五福竜丸展示館周辺  
(北側駐車場)

本郷の学士会分館で開かれ、科学者、ジャーナリスト、青年、婦人、平和運動家ははじめ各界から四〇名余が参加しました。今年の記念講演は、太平洋軍備撤廃運動の国際コーディネーターであり、最近発足した平和資料協同組合の副代表である梅林宏道氏。「アメリカの世界戦略と日本の課題——ニュー・ガイドラインの意味するもの」と題し、OHPを使いながらおおよそ一時間、日米防衛協力指針改訂の本質を解説。非核地帯運動、基地撤去の運動にもふれ、東北アジア地域の非核地帯化の必要性を強調し、「中国、ロシアをいれないでも、日本と朝鮮半島の三か国で承認することで可能ではないか、NGOの役割はおおきい」など問題提起をしました。

る。一九六九年三月二十二日にNHK放送記念日特集としてドキュメンタリー「廃船」がテレビで放送された。三十年近く前のことである。私も見ていなかった。私の友人藤爽子さんから、彼女の夫の今は亡き工藤敏樹さんがこの番組のディレクターであることを知り、ビデオを拝見した。第五福竜丸のエンジンを丹念に、しかも事実を追いつづけた作品に感動した。昨年十月三日の都民運動結成集会上映、参加者全員、同席の都議会議員も口々に「このビデオこそ船体とエンジンの再会の立役者」と絶賛した。

四十四年前を思い出す。死の灰の恐怖からマグロばかりか魚全部を巻き込んで、母親は子どもに食べさせられない、魚屋は売れないという悲鳴が日本全国を駆け巡った。いのちと暮らしておびやかされる現実と、放射能の恐ろしさの報道が進むにつれて、原水爆禁止の世論は署名運動となって波紋を広げた。私の平和運動の原点が死の灰の第五福竜丸にあるのと同じように、核兵器廃絶のいわね証人として、船体とエンジンが再会した第五福竜丸が、二一世紀を生きる人々の心に平和の砦を築くことを願っている。

### 展示館の第五福竜丸とエンジン、マグロ塚にあつい思いを託したい

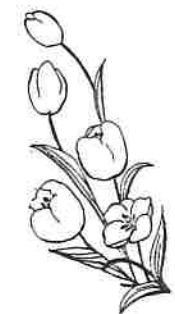
大石 又七

数奇な運命を辿りながら、第五福竜丸の船体から引き裂かれるようにして売られ、海中に没したエンジンが三〇年近い年月を経て、イビキニデーと共に母港であるこの焼津に姿を現しました。私は驚きと複雑な思いで前に立ちました。エンジンは甦っても、それを操っていた六人の機関員たちは二度と甦ることはありません。私は一人一人の顔を思い浮かべました。山本忠司機関長、高木兼重さん、鈴木鎮三さん、増田三次郎さん、久保山志郎さん、増田祐一さん、彼等がこのエンジンを見たら何と云うだろう。本当に残念です。彼等もみな久保山愛吉無線長と同じように癌や肝機能障害で亡くなっていったのです。

また、昨年四月には、十一人目の安藤三郎さんが郷里の九州で肝臓癌になり、亡くなりました。その時、私は高木さんの奥さんから大変ショックな話を聞かされました。それは高木さんが亡くなった時のことです。人の良い高木さんは、常々、仲間たちの病気を心配しながら、広島・長崎の人達と同じように原爆手帳が貰えないのか、何とかならないのか、担当医に言い続けていたそうです。困り果てていた担当医は高木さんが亡くなる間に、見るに見かねて、原爆手帳が貰えるようになりましたよ、と言って安心させて見送ったそうです。

思い返してみると、このビキニ事件は、私たちが入院中に政治決着しました。決着しようとしていたとき、やはり機関員である鈴木鎮三さんが、只一人、加害者アメリカの賠償責任を強く主張しました。しかし、行政に逆らった鈴木さんは、最後には狂人扱いをされて相手にされなくなりました。そのころの私たちは政治的なことなど何も分からず、それどころか、幹部たちも迷惑をかけて申し訳がないと言う考えのほうが強くて、ただただ行政の言うなりでした。後遺症でこんなにも多くの仲間を失った今、考えてみると鈴木鎮三さんの言っていたことのほうが正しかったようです。

奇しくも鈴木鎮三さんは太平洋戦争中、マーシャル諸島のルオット島で守備隊にいました。そしてアメリカ軍の艦砲射撃の猛攻を受け、海に逃げたが捕虜になりロスアンジェルズで抑留生活もしています。私たちがより、ずっと大人だったのかも知れません。水爆実験の被爆以来四十四年間、いろんなことが起こり、いろんな思いをしました。ここにきて一番気掛かりだったのは、仲間たちへの慰霊祭のことです。同じ条件の仲間を十一人も失いながら、これまで一度も慰霊祭をしてきません。何とかしなければと思っていました。が、ようやく昨年の六月に思いがかないました。ご遺族の方々から心よく戒名がお借りでき、元乗組員たちだけのささやかな慰霊祭を行うことができました。そして今は亡き仲間たちの顔を思い浮かべながら、あらためて核兵器と人類は共存できないのだという思いを新たにしました。人の命は短いのです。そしてすぐ忘れれます。この、ビキニ事件をいつまでもいつまでも後世に伝えるためにも、展示館の第五福竜丸や引き上げられたエンジン、私の願っているマグロ塚などに、あつい思いを託していきたいと考えています。



皆さんと共に私も頑張ります。一九九八年三月一日 三・一・ビキニデー焼津集會にて

(元第五福竜丸乗組員)

### 環境問題と人間の未来③

#### 二酸化炭素と地球の未来

猿橋 勝子

大気・海洋における二酸化炭素は、地球上のすべての生物が生きて行くための食物生産の、大事な原料物質である。二酸化炭素と水と太陽光を原料として、光合成により食糧が生産されている。従って、人間生存に欠くことができない資源でもある。

化石燃料の燃焼は、二酸化炭素のほかに、少量の硫酸、亜硫酸、硝酸、亜硝酸などを排出する。一部は降水に溶け雨を酸性とし、土壌を酸性化し、樹木を枯渇する。森林の破壊が光合成作用を大幅に減少し、大気中の二酸化炭素を相対的に増加させる。

私たちの研究室では大気・海洋間の二酸化炭素の交換について、伊豆大島南方で予備的観測を試みた。海面直上の大気中及び、表層海水中の二酸化炭素の鉛直分布を知るために、海面直上から高さほ

ぼ一〇センチ毎に、数ヶ所の空気を取り入れ口を付けた袋を浮かべ、また船上の約一〇メートルの高さの空気を採取し、大気中の二酸化炭素の鉛直分布を測定した。また表層水については表面から数メートルの深さ毎に同時採水を行った。その結果、大気については海面の高さ一〇センチから一〇メートルの間では、二酸化炭素の濃度はほぼ均等であったが、海面上数センチ以下では濃度は急減し、表面水との間には、時に約五〇ppmの差があることが観測された。このことは海面上一〇センチ以上では、鉛直拡散が速いが、海面近くでは、大気中の拡散がかなり遅いことが示された。これに対し表層水中では、水深数十メートルまで、濃度はほぼ均等で表層水中の拡散が速いことが分った。

新しい知見としては、大気中の二酸化炭素の海面への溶け込み速度が、従来の値よりかなり遅いことが別に求められた。そのため大気中に新たに放出された二酸化炭素が、海水に溶け込み切れず、大気中に残る結果を招いているのではないかと考えられる。

また太平洋全域について、海洋表面の真上の大気中の二酸化炭素濃度と、同時に表層水中の無機・有機の炭素化合物の測定を行った。結果は、南北両太平洋の多くの海域で、大気・海洋間に二酸化炭素の平衡が成立していないことが分った。ある海域では、大気中の二酸化炭素が高く、またある海域では海水中の濃度が高い。言い換えると、海洋は大気中の二酸化炭素の増加分を吸収する貯水槽と、単純に考えるのは難しい。

FAO(国連食糧農業機関)の報告によると、日本国総面積の半分に当たる約一七〇〇万ヘクタールの熱帯林が年々消失しているという。原因は過度な放牧や焼き畑などのほかに、木材の過剰な伐採によるものである。森林の破壊は樹木による光合成作用を奪うばかりでなく、土壌中に腐食物として蓄えられた有機物が酸化分解され、

二酸化炭素を大気中に放出することにもなる。経済の発展を優先させた無計画な樹木の伐採等がもたらす公害の一面であろう。

このままでは、大気中の二酸化炭素は今後も増えて行くであろう。大気中の二酸化炭素の主な行方は、生物圏・水圏が考えられる。その挙動については、大気圏のみならず、全地球的問題として捕らえねばならない。人類が今後も地球に住み続けるためには、人口問題、水・食糧問題の重要性は言うまでもなく、生産活動を含めて抜本的な技術革新が要請される。気候温暖化にかかわる問題としてだけでなく、今後にむけての二酸化炭素削減計画も、急ぎ進めねばならない。それは世界の経済・生産活動、生態系・人間環境への影響、地球の将来に関わる大きい問題である。(おわり)

(当協会理事・元日本学術会議会員)

(お詫び 前号連載②の三段目末尾から4行目「科学平衡」は「化学平衡」の誤りでした。)

